



TCA

— NEWS —

Vol.18 秋号

発行
富山市民国際交流協会
広報委員会

〒930 富山市丸の内1丁目4番50号
富山市国際交流センター(市図書館1階)内
TEL (0764) 42-1109 FAX (0764) 42-3807
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代



写真提供「ダーラム・ヘラルド/サン」紙

Durham Arts Council's



centerfest
'97



come face-to-face
with the Arts

センターフェスト

「センターフェスト」は毎年9月下旬に開催され、地域ボランティアのもとでダーラム芸術協会、米国芸術基金、ダーラム市の支援を得て行われます。30組以上になるパフォーマーやグループ演奏、それからショッピング・サファリ(買物旅行)等最高の休日です。

今年で第24回になり、9月19日(金)の夕方からサラダ・ダンスで始まりました。20日(土)・21日(日)の週末には、ダーラム市の繁華街は7万人以上の人たちが、地域芸術祭の視覚芸術、舞台芸術を楽しみ、活気に溢れてにぎわいました。

会員募集

広げよう友情の輪

1997.9.6~10

海外研修

いちばん近い国…韓国友好訪問



昌原市表敬訪問（右手前企画管理室長）



昌原市役所前にて



慶尚南道韓日親善協会との交流挨拶

平成9年度の海外研修は、親善交流を目的として、最近隣国である韓国を訪問しました。

韓国は富山空港より、ソウル便が就航し、人、物の交流が盛んに行なわれております。

当協会の「東アジア国際交流フェスティバル'95」では、「韓国ウィーク」が開催され、文化、芸能などについて理解を深めてきております。環日本海交流の促進を図る意味からも、今回の研修は有意義であり大きな成果がありました。



慶一高校の先生と松茸料理で懇親交流



仏国寺前にて



韓国昌原市を訪問して

副団長 内山恵美子

今年度の研修訪問地は韓国慶尚南道中部・大規模工業団地を擁する産業経済の中心地・昌原市でした。

最初に訪れた慶州は、仏国寺・古墳公園等、街全体が新羅時代の歴史や文化を継承している、古都のたたずまいでした。

昌原市に入って目に入ったのは、青い空、片側5車線の直線車道、広い緑地と並木の中の舗道、整った家並みが人工と自然を調和した幾何学模様の世界でした。市役所前の円形芝生広場の広さも驚きでした。

表敬訪問しました市役所及び慶尚南道韓日親善協会の方々から、温かい歓迎を受けました。相互の市長のメッセージが取り交わされ、市政の現況をビデオで見せて頂き、軍用地であったこの地域が、戒厳令解除後、公示によって国内初の人工計画都市に定められ、建設が進められ、17年前昌原市が誕生、急速に人口も増え51万人（平均年齢27才）と若い住民のパワー満帆です。2016年には韓国第一の都市になると自信を持って話されました。

得ることの多い研修でした。懇親会に出席された方は日本語のできる方が多く話題も豊富で、特徴あるアクセントもより一層親しみを増しました。散策の人や、若い親子連れに、韓国語で（下手）話しかけると快く応じてもらったことが交流につながるのかなと思っています。

年齢はともかく、心が若い団員12名がそれぞれの交流の実感を土産に帰国できましたことを幸せに思います。

国際交流担い手ネットワーク全国会議

—国際交流がひらく未来—



第10回「箱根会議」国際交流担い手ネットワーク全国会議 1997年7月4日～6日 於国立中央青年の家
 "THE 10TH HAKONE CONFERENCE" FROM JULY 4 TO 6, 1997 AT GOTEMBA, JAPAN



参加者と…。安藤さん（前列左）と荒山さん

「箱根会議」に参加して

総務企画委員 安藤 眞理子

「箱根会議」国際交流担い手ネットワーク（代表：平野健一郎 東京大学教授）は、国際交流の各分野で活躍する全国各地の担い手たちが、国際交流のあり方について互いに学び、それぞれの専門分野を超えて協力し合うことで、日本の国際交流の進展に寄与し、より魅力的で住みやすい地球市民社会の実現に貢献することを目的として、緩やかに連携するネットワークです。富山市民国際交流協会の設立記念事業でもありました『国際交流担い手シンポジウム in 富山』は、第6回「箱根会議」の地域会議であり、参加者一人ひとりが国際交流の担い手として、地域の課題を本音で語り合い実践に移すためのシンポジウムでした。第10回の今年、「国際交流が開く未来 — 民のイニシアティブと明日の社会」がテーマに掲げられ、3日間自由活発なディスカッションをはじめ、さまざまな角度から「民」のイニシアティブについて述べ、考え、21世紀の地球社会に国際交流がどのような道すじを描けるのか、我々は何をすべきなのかを語り合いました。両日就寝は午前3時過ぎ、来年の無い「箱根」全国から集まった200名の国際交流大好き人間たちは夜を徹しました。

豊かに醸成された土壌を残し平成9年7月6日、「箱根会議」は暫しの休止符を静かに打ちました。新しい発見を目指すため!!

「箱根会議そして国際交流のこれから」

事務局職員 荒山 洋子

「箱根会議」のテーマは、その時どきの国際交流の潮流が抱える問題を反映しており、また進むべき方向を示してきたと言える。それはまた、日本社会の変容を表しているといえる

第10回テーマは「民のイニシアティブと明日の社会」。分科会で私は、「“ボーダレス”を再検討する—世代間に見る国際意識」に参加した。

世代間の意識差、感性差の討議を目的に、国際意識について意見が交わされ、「自分を孤独とを感じる」と答えた小学生が米国に比べて5倍という参加資料から、「自分について考える機会がないのでは」と言った現代日本社会のあり方にまで話が及んだ。

閉会で平野代表は「国際交流の担い手たちの緩かなネットワークを目指してきた会は、その一応の目的を達成した。これまで特定の立場をとらず、政策提言を行わなかったことへの批判もあるが、変革への「民」の声を高める役割は果たし、今後にも期待が望める。また、10年目の今回は、出席者同士でも、世代差による意識、意見の相違が顕著だった。それをどう埋めていくかが、今後の課題と感じられた。」と、この10年を総括されたのが、印象的であった。

分科会が示すように、「箱根会議」での議論は決して「国際交流」という論点だけでは終わらない。常に日本社会そのものについて言及される。この事実、そして平野代表の言葉が「国際交流のあり方」を、私たちに示していると言えないだろうか。

協会の活動や国際交流について、日頃、思うこと……

(理事の方々に寄稿をお願いしました。)



『真の国際交流への近道』

水口 昭一郎 副会長

この度、当社のS君が国際青年育成交流事業に参加し、ドミニカ共和国へ派遣されることとなりました。

かねてより海外現地法人からの研修生の受け入れ、海外ユーザへの出張等を通じ、国際人の育成に努めて参りましたが、S君のようにボランティアを通じての国際交流は初めてのことであり、私としましては誠に喜ばしいことと思っております。

さて、このことを機に今一度国際交流のあり方を考えてみますと、単に語学に堪能であるとか、海外へ出かけていくと言うことではなく、一人の人間として出会いを大切に、肌で接し、相手の国の文化を理解しつつ交流を深めることが、真の国際交流への近道ではないかと思っております。



『世界へつなごう心と心』

高 沢 規子 理事

昭和56年から実施されました富山県女性海外派遣事業に参加しました女性達、現在750名の婦翔会メンバーは、海外体験プラスワン運動として、草の根の国際交流やボランティア活動を展開いたしております。中でも国際交流ひな祭りパーティーは、今年で10回目を迎えました。2月22日に開催いたしましたパーティーには、県内在住の15ヵ国120名近くの外国の方々と300名の会員が一同に集いまして、日本の伝統行事のひな祭りを通して、茶の湯や折紙、あやとり等日本の伝統文化を楽しく紹介しながら交流を深め、富山での思い出とともに友情の輪を広げることが出来ました。

又、県下4つの支部におきましては、ホームステイやホームビジットをはじめ、それぞれの地域の外国の方々と会員が主体的に企画、運営しましたスポーツや食文化、芸能を通して、ふれあいながら相互理解と友好親善を活発に行い県下全域に交流の花を咲かせております。



『斜視的国際交流論』

能登谷 久公 理事

この頃、時代の風潮とはいえ国際化、国際交流なることばが氾濫している。外国への留学、留学生の受入れ等は意義のある事と考えられるが、現今の国際交流事業をみていると表面的な諸行事の日程消化に翻弄されているとしか思えない事がある。

国際交流を通じて平和な世界の出現を望むのであれば1人でも多くの知日家、親日家を育てる事が必要となります。外国人との交流に際して一通りの紹介でなく、更に踏込んだ交流を通じて親日家や知日家を持とうとすると、日本の歴史、芸術文化、宗教、習慣など私達日本人の依って立つ背景について、彼らに語り伝えるべき十分な知識や認識が必要と考えられます。更に、彼(彼女)の背景についても勉強し、彼我の差異を充分認識しておく必要があります。

草の根的国際交流と云う考え方もあろうが、彼我の国情を充分理解した上で、民族・国家間の摩擦や軋轢が抑止出来るような、息の永い国際交流への展開を望むものであります。

ゆかたを着て みんなでいっしょに踊りました

7月6日「日本舞踊」
7月28日「おわら踊り」



市内在住のアメリカ、中国、カンボジア、ベトナム、マレーシア、ロシアなど12カ国の留学生や外国語指導助手ら50余名は、浴衣を着せてもらいうれしそうだった。

講師の花柳源香さんから、日本舞踊の作法の指導を受けたり、「寿酒」「松のみどり」の踊りを見学しました。

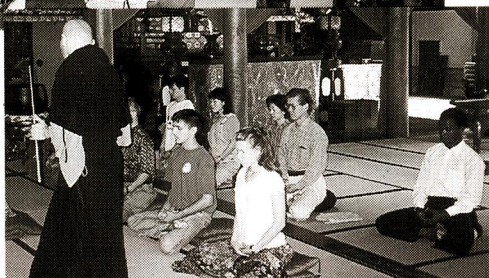
この後、参加者はうちわを手に「我は海の子」を全員で踊り、交流を深めました。

また、27日には「越中おわら節」の練習もしました。

ZAZEN 座禅

9月7日「海岸寺」富山市梅沢町

留学生など20余名は、650年の歴史のあるお寺で座禅を体験しました。住職から「無心の大切さ」の説教に伝統文化への理解を深めて。ありがたや…。



国際交流カレッジ開講

—第1回講演会—『国際協力はなぜ必要か』

講師 佐々木 豊 氏 (国際協力事業団北陸支部長)

国際カレッジは、国際交流や姉妹都市交流に必要な知識の国際儀礼・国際事情・姉妹都市事情の修得を通じて、国際協力の精神や国際理解を深めることを目的に実施されました。

ビデオなどを使って、海外青年協力隊の活動を紹介しながら、国際協力の必要性を強調されました。



7月27日富山市民プラザAVスタジオ

『第3回 JWF』 富山で開催

Japan Wildlife Festival (JWF) は、今年も富山市民プラザを中心に開催されました。2年に1回の開催ですが世界中にも高く評価されてきました。今年は、8月21日～24日の4日間で世界27か国から367本の応募作品があり、19本のノミネート作品から11本が入賞いたしました。高岡、黒部のサテライト会場とあわせ4万人の人々がフェスティバルに参加されました。野生生物映像



Wildlife 創刊号から

のコンクールとしてカンヌ映画祭のように発展することを期待しています。今回は、前夜祭にミジンコの研究者として知られている坂田明氏のジャズコンサートもあり、さらに、開催中には素潜りのジャック・マイヨール氏も参加、自然の素晴らしさ、大切さを強く訴えている事が印象的でした。2年後1999年の第4回JWFにはさらに多くの作品の応募が期待されますので一層多くの人々の参加をお願いします。

(JWF実行委員会 理事 小川 弘氏 談)



「友好親善奨学金」贈呈

友好都市の秦皇島市報道機関訪問団の一行7名は、富山市役所表敬訪問の後、当協会を訪れ会員と懇談し、両市民の友好を深めました。

そして、当協会の事業「友好親善奨学金」(秦皇島市で日本語を学ぶ青少年に奨学金10万円を支給)を贈呈しました。



7月8日当センター会議室

お知らせひろば

富山市民国際交流協会 5 周年記念事業

国際交流フェスティバル'97

“とやまの街から世界を”

- ・と き 10月19日(日) 午前11時
- ・ところ とやま自遊館
(富山市湊入船町9-1)

11:00

富山市民国際交流協会 5 周年記念式典

- ・式典
- ・外国民族芸能披露

11:30

国際交流フェスティバル'97

- ・ステージ公演
外国民族芸能 楽器演奏 舞踊他
- ・ブース出展・紹介
民芸品展示 販売 ビデオ・パネル活動紹介

16:30

交流パーティー 交流参加費 2,500円

＝ご協力をお願いします！＝

ご家庭で不必要な品々をご提供していただけないですか？

交流フェスティバルでビンゴゲームの景品に使わせていただきます。

みなさんの参加をお待ちしております。

申し込み・お問い合わせは当センターへ

TEL 42-4109 FAX 42-3807

編集後記

今、“とやまの街から世界を”をテーマに富山市民国際交流協会 5 周年記念事業は、「国際交流フェスティバル'97」実行委員会で開催準備が進められています。(とっぴに)発想し、(とことん)話し合い、(がっちり)仲間を作り、実行すれば(やったぞ)達成感に、喜び合って、交流は広がり国際親善は深められて行くでしょう。

10月は国際協力月間です。小さい事からも参画しましょう。では、たくさんのお便りなどをお待ちしております。

広報委員長 岡田 昌代

国内研修

“国際交流先進都市に学ぶ”

- ・と き 11月22日(土) ～ 23日(日)
- ・ところ 大阪国際センター
豊中国際交流協会
- ・人 員 20名
- ・会 費 20,000円(予定)

日本伝統文化講座

“富山市在住の外国の人たちと異文化交流”

茶 道	10月26日(日)	富山市舟橋南町22 富山県知事公館 ☎32-3005
華 道	11月30日(日)	当センター1F 会議室 ☎42-1109
大正琴と 餅つき	12月21日(日)	当センター1F 7F ☎42-1109

国際交流カレッジ開講

第2回講演会『青年海外協力隊活動報告を
通して世界を知ろう』

講師 山崎 真 氏 タンザニア国派遣
荒井由香 氏 エルサルヴァドル国派遣

- ・と き 11月16日(日) 午後1時
- ・ところ 当センター会議室3F

入場無料

役員の変更がありました

理事 (新)能登谷 久公 (旧)浜谷 正人
“ (新)本保 勝弘 (旧)吉沢 孝
地域交流委員会委員長
(新)佐伯 信義 (旧)館盛 貞信